

# 所沢税務署長賞

## 税と社会保障

藤沢中学校 三年 積田 萌花

私は小学生の頃は何故、税があるのだろうかと思っていました。特に消費税はなければ良いと思っていました。

しかし、ある日、テレビでデンマークという国での暮らしをテーマにした番組を見ました。その国では消費税が約二十五パーセントほどで、とても高いなど感じました。しかし、デンマークの国民の幸福度は世界でも非常に高いと言われています。「何故？」と思った時に、その番組がデンマークの社会保障について紹介しました。大学、高等学校などの学費の免除、医療費、介護サービスは無料、出産・育児休暇を五十六週間取っても給料がでたり、結婚式・葬式の費用も無料など、高い税金をとられても国民は納得し、安心してくらせる社会保障があります。

日本には沢山の社会問題があります。例えば、育児環境が良くないことなどが原因の少子化、高齢者の年金問題、それによる高齢者が医療費や介護費が払えず、健康に生きていくことが難しくなっていること、そして、このコロナ禍で働き口がなくなり、大学費を払えず、退学することになった多くの大学生達などの問題があります。

そして私はどうしたら、日本人はデンマーク人のように幸せになれるか考えました。やはり、税が深く関わっていると思います。ただ、デンマークのような高い税では、生活が苦しくなってしまう人

もいるのではないかと思いました。私は、裕福な人と貧しい人との格差がなくなれば良いなと思っています。だから税を生きるのに必要な商品に重くかけたり、裕福な人たちから今よりも重い税をかけたりにして、その格差を縮め、格差社会から脱することができないのではないかと思う。私は生きるのに必要な商品以外に、デンマークのように重い消費税をかけ、社会保障を充実させ、今の日本の社会問題が一つでも減れば良いなと思います。健康や老後への安心感、学校へ通える喜び、安心して落ち着ける育児、それが国民の幸せだと思います。だから、日本はデンマークのようにいなくても、国民一人一人が税を大切にしていけないと思いました。そして税の国民の反感をかうような支出はやめるべきです。

このように、私は国民の幸福度は税が関わっていると信じています。だから私たちは、税に関心を持ち、税による社会保障に感謝しなければなりません。